

『剣道でつながる』



和歌山県
城山台剣友会
中学3年生

森 島 なつ美

剣を通じて心を交わす。そんな剣の道を私は歩む。小学3年生の冬、友達に誘われて剣道を習い始めた。そのときは、一つの運動として始めた。しかし今、私にとって剣道は世界とつながるためのきっかけとなる、大切な宝物だ。

中学校の修学旅行で私は、国際協力機構 JICA を訪れた。ここは、開発途上国への国際協力として、日本の技術や知識を伝えることなどを行っている。私たちは、その研修員である外国の方々と、食事をしながら交流するためにやってきた。私は、ドキドキしていた。私の英語はしっかり伝わるのだろうか。聞き取り、理解できるのだろうか。研修員の方々は楽しんでくれるのだろうか。それからもう一つ、大きな心配事があった。私は学校の代表として、いや、日本の文化を代表して、日本剣道形を披露することになっていた。部の三人の仲間と、二人一組で発表する。何度も練習はしたが、やはり不安だった。間違えたらどうしよう。失敗しないだろうか。外国の人が見て、喜んでくれるのだろうか。そんな心配と緊張でいっぱいだった。

事前の説明を終え、食事が始まった。私たちのグループは、アフリカの南に位置するレソト王国の男性が話をしてくれた。国のことを聞いたり、お箸の持ち方を教えてあげたり、楽しい時間はあつという間に過ぎていった。そしてついに、発表の時間だ。私は彼に英語で「私は剣道をしています。剣道は日本の文化です。見ていてください。」と言った。彼は不思議そうに、きょとんと首をかしげていた。そのとき、私は強く思った。剣道を知らない彼に、剣道の迫力と日本の心を伝えたい、と。

「やー!」「とお!」

会場いっぱい私たちの声が響く。周りはずんとして、みんなが私たちに注目しているのが感じられ、木刀を握る手にも力が入った。演武が終わって、会場は大きな拍手で包まれた。失敗は無く、無事大成功。ホッとして友達と笑って話をしていると、ふと彼と目が合った。さっきのきょとんとした顔が嘘のように、彼は満面の笑みで私に微笑んでくれた。それだけで私は、剣道の迫力と日本の心が伝わったのだと分かった。今すぐその場でジャンプして、ガッツポーズしたい、そんな気分だった。剣道が、私の心と彼の心をつないでくれたのだと実感した。

近年、グローバル化などによくいわれるが、大切なのはつながること。それが英語などの言葉なのかもしれない。インターネットという便利な機械なのかもしれない。しかし、つながるために本当に大事にしなければいけないのは、お互いを知り、理解すること。そして、心を動かし、感動させるということだ。剣道は日本の伝統であり、一生かかって歩む道。相手を考え自分を研究する、そんな剣道だからこそ、日本や自分自身を知ってもらうきっかけになる。そして、人の心を動かすことができる。感動させて、心と心をつなぐことができるのだ。

剣道に出会い、信頼できる仲間や本気で向き合ってくれる先生に出会った。楽しいことばかりではなく、苦しいこと、辛いこともたくさんあった。それでも、相手を思いやり、剣を通じて心を交わす。そんな剣の道を、私は歩む。一生懸命、剣道をする。そうすれば、きっと剣道は、私と誰かをつないでくれる。

私は学生である間に外国でホームステイをしたいと考えている。そのとき、剣道という私の宝物が心のつながりのきっかけになってくれるだろう。

世界を知るために我が国を知る。我が国、日本の文化である剣道を知る。剣を交わすこと、それをきっかけに、たくさんの人と心を交わしたい。